

冬季における交通事故防止

これから季節は、濃霧・凍結・積雪が予想されますので、交通事故を防ぐため、事前の準備・運転時の注意事項などを確認しましょう。

濃 霧 時

- 速度を落とす
霧や車のガラスについて「つゆ」の影響などで視界が悪くなるため、いつ障害物や車両が現れても対応できるように、いつでも止まることができる速度で運転しましょう。
- 灯火類の適切な活用
前車や対向車に状況がわかりにくいので、昼間であってもライトをつけて、対向車や後続車に自車の存在を知らせましょう。
なお、ハイビームは霧に反射して視界が悪くなりますのでロービームで走行しましょう。
- 無理をしない
運転を続けることが危険と判断した場合には、早めに安全な場所に停車しましょう。

凍 結 時

- タイヤと装備の確認
凍結が予想される場合には、必ず冬用タイヤ・チェーン等を必ず準備し、いつでも対応できるようにしましょう。また、凍結時に必ず装着しましょう。
- 速度と車間距離
制動距離が通常時よりも数倍長くなりますので、速度を落とし、前者との車間距離を十分にとりましょう（冬用タイヤ・チェーンでもスリップします。）。
- 道路状況の把握
日陰や橋などは特に凍結しやすいので、路面をしっかり確認してください。
- 無理して運転しない
凍結時の運転には、通常とは違う操作が求められますので、無理して運転しないようにしましょう。

積 雪 時

- 凍結時以上の注意が必要
凍結時と同様の注意が必要ですが、路面はさらに滑りやすく、降雪による視界も妨げられますので、最大限の注意を払って運転しましょう。
- タイヤと装備の確認
すでに積雪している場合には、途中で走行不能となり周囲に迷惑をかけることにならないためにも、必ず冬用タイヤ・チェーンを装着しましょう。
- 不要不急の運転は控えましょう
積雪時の運転は事故のリスクが非常に高いので、通勤および業務に関しては、公共交通時間の利用・自宅待機・運転の禁止など、適切に判断しましょう。